

平成31年2月25日

研究科長 殿

審査委員

主査

副査

副査

安野 富美子

坂井 友実

谷口 博志



学 位 論 文 審 査 報 告 書

学 位 申 請 者	保健医療学 研究科 保健医療学 専攻 平成28年度入学 氏名 松浦悠人	学 籍 番 号	5216002
申 請 学 位	博士(鍼灸学)		
学 位 論 文 題 目	うつ病と双極性障害うつ状態に対する標準治療による助走期間を考慮した鍼治療3ヶ月間の上乗せ(add-on)効果と持続効果:過去起点型コホート		
成 績	合 格		
審 査 期 日	平成31年2月8日 ~2月18日		

注 1 論文審査の成績は、合格又は不合格とする。

2 学位論文審査要旨を添付すること。

学位論文審査要旨

審査委員

主査

安野富美子

副査

坂井友実

副査

谷口博志



学位論文提出者

保健医療学

研究科

保健医療学

専攻

平成28年度入学

氏名

松浦悠人

学位論文題目

うつ病と双極性障害うつ状態に対する標準治療による助走期間を考慮した
鍼治療3ヶ月間の上乗せ(add-on)効果と持続効果: 過去起点型コホート

学位論文審査の要旨

本論文は、薬物療法で効果が得られ難かった難治性のうつ症状に対して鍼治療を併用することにより、良好な臨床的効果が得られるか否かを明らかにすることを目的に行われた臨床研究である。具体的にはうつ病(Major depressive disorder: MDD)と双極性障害うつ状態(Bipolar disorder: BD)と診断された参加者に対して、助走期間(標準治療のみ)と鍼治療期間(標準治療に鍼治療を上乗せ)、フォローアップ期間(標準治療のみ)とを比較することにより評価したものである。研究デザインは過去起点型コホートを用いた、標準治療助走期間を3ヶ月とし、標準治療に鍼治療を上乗せした期間3ヶ月(A)、フォローアップ期間3ヶ月(B)として比較するAB法である。参加者の組み入れ基準は、①MDD およびBDの診断、②18歳以上、③2種類以上の薬物による十分な治療で改善または寛解しない、④鍼治療前3ヶ月の「ひもろぎ自己記入式うつ尺度」(Himorogi self-rating depression scale: HSDS)のデータがあり、鍼治療の初診時に10点以上の者とした。除外基準は、脳血管障害・悪性腫瘍の既往、自殺傾向等である。鍼治療は、百会・合谷・内関・足三里・三陰交・太衝・脾俞・肝俞・心俞・風池を共通治療穴とし、参加者の身体症状に応じて治療部位は追加し、週1回3カ月間行った。主要評価項目はHSDS、副次評価項目は、「ひもろぎ自己記入式不安尺度」(Himorogi self-rating anxiety scale: HSAS)と使用薬物(抗精神病薬、抗うつ薬、抗不安薬)の等価換算値とした。統計学的解析は、反復測定分散分析法の後、有意差が認められた場合は、Dunnnett検定を行い、有意水準は0.05とした。

その結果、鍼治療を実施したMDD 8例中6例、BD 19例中13例が解析対象となった。HSDS(mean±95%CI)は、鍼治療前19.2±2.4点と比較し、2ヶ月後16.2±3.0点、3ヶ月後12.8±2.5点、4ヶ月後14.5±3.1点、5ヶ月後14.6±3.8点の時点でそれぞれ有意な改善がみられた。HSASは、鍼治療前19.2±3.7点と比較し、2ヶ月後15.0±4.1点、3ヶ月後14.0±3.4点、4ヶ月後14.7±3.9点の時点でそれぞれ有意な改善が認められた。3期を通じて使用薬物の等価換算値に変化はみられなかった。

以上より、本論文は、薬物療法で効果が得られにくかった難治性のうつ症状に対して、標準治療へ鍼治療を上乗せすることにより、うつ症状が改善すること、鍼治療を中止してもその効果は2ヶ月間は持続することを明らかにしたもので、精神科領域における臨床鍼灸学に新たな展開を示すものである。よって本論文は、鍼灸学博士の学位に値するものと認める。